

**答** 今年になつて、治療

## 問 その成果は。

**答** 1回10万円を年2回  
とし、通算5カ年実施して  
きた。今般1回15万円  
とし、初年度に限り年3  
回まで使え、通算5カ年  
とした。

問 不妊治療支援事業費  
255万円は前年度より154万円増となっているが。

## 不妊治療支援事業 について

については、市區長会でも見直しの検討が出されており世帯割の導入案や区域の面積、一世帯ごとの距離などを勘案すべきという意見もあり、現在協議中である。一方では、各行政区に対する行政区事務交付金の中で一世帯当たり年間100円を世帯割として手当てしておきり、行政区事務交付金の見直しも含め総合的に検討したい。

**答** 消火栓、防火水槽の点検は年2回程実施し、年間867基の水利等を確保している。

**問** 火災発生の際は、縦  
路や国道を横断しなけれ  
ば水利を確保できない例  
もある。環境を調査した  
上で、消火栓など設備し  
ているか。

## 消防水利の 環境整備について

答　一回の治療に20万円から50万円の経費がかかる。その内、市と県それが15万支給していく。今後状況に応じて検討していきたい。

問 少子化対策に成果が出ている。今後も希望があれば増額を見込めるか。

された方の2名が妊娠し、過去に治療された方で出産した方は1名という結果が出ている。

問 CS放送のデジタル化に伴う※C-CASカードの設置工事が行われているが、この事によりテレビが視聴できなくなる方はいないか。また、デジタル化への切り替え工事に伴う長期不在者などへの

## ケーブルテレビ放送について

**答** 基本的に線路を越さない消防活動を教育・訓練している。止むを得ず線路を越す場合は、線路の下を通す手法で防御活動を行う。消防水利は、年間、防火水槽1基、消火栓2基の計画的な整備を進め、不便地域を改善していきたい。

問 鉄道や国道を横断しても川までの距離がある等、住宅の近くで十分に水を確保できない状況では機能が直ぐ発揮できな  
い。防災計画等の見直しでは環境との整合性を考えた体制作りをすべきで

答 少子高齢化社会が進

**地域活動専門員について**

**問** 地域活動専門員を全地区センターに配置する目的は何か。また、この専門員の配置は近い将来地区センターの職員を吸い上げる根拠作りにするものではないのか。

CASカード設置訪問時に不在の方には訪問表を置いていたりしながら漏れの無いように対応している。

**答** C-CASカードの設置は、CS放送のデジタル化に伴う作業である。遠野

対応は

行する中で、地域力を維持・存続させ、活性化させて相談に応じながら、課題解決に向けた支援や対策を講じることを目的としている。また、地区センター職員の2名体制の維持は非常に厳しい状況にはあるが、専門員の配置により職員をただちに減らそうとするものでない。限られた財源を活かしながら長年培ってきた市民センター構想のステップアップを目指し、自分のことは自分で守る「自助」、地域で支え合う「共助」、行政が担う「公助」、それとの連携と調和の取れた、新たな市民協働による地域ミニユニティーの仕組みづくりに取り組んでいく。

※C-CASカードとは…ケーブルテレビ用のICカードのこと。チューナー(STB)に挿入すると番組を視聴できる仕組みになる。  
※STBとは…SFT(サット)・TOP(トップ)・BOX(ボックス)の略称